

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	肺癌における細胞外基質の様態と臨床病理学的相関
	研究目的	西暦 2000 年前後に肺癌の発育史は病理学的ならびに CT などの画像診断で検討され、早期肺癌が数多く発見される様になり、手術術式や予後に大きく影響してきた。一方、2015 年版 WHO 肺癌分類では、非浸潤癌と浸潤癌以外に微少浸潤癌が提案され、また、2017 年に改訂された UICC/AJCC-TNM 分類では T 因子に初めて浸潤径の概念が加わった。現在、外科的術式の選択や予後推定に浸潤の程度が大きく影響を与えているが、実際の肺癌の診断において浸潤範囲の病理学的客観化が難しい。そこで、我々は浸潤の指標となるバイオマーカーを求め、腫瘍細胞自体あるいはその周囲に発現する分子を定性あるいは digital imaging などの手法で定量化することを目指す。また、臨床病理学的データとの比較から手術適応や予後予測の基準を作成することを目的とする。
	研究対象者	西暦 2000 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日の 18 年間に、神奈川県立がんセンター呼吸器外科で肺癌の外科治療を受けた患者さんのうちで、がん研究に対する包括的な同意が得られている方。
研究期間	西 暦 2018 年 9 月 14 日 ～ 西 暦 2021 年 3 月 31 日	
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(当センターの生体試料 <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録 センターが管理する凍結組織検体)	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	横瀬智之
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	病理診断科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	該当しない。